

家庭科教育の体系化に関する試論
 —ライフスタイル概念に基づくアプローチ—

弘前大教育 盛 玲子

目的 現行家庭科カリキュラムは、領域・内容を「総合化」の視座から再編成する方向で論議されているが、現状における家庭科教育の諸問題の具体的な解決策としては家庭科教育の本質の追求が肝要である。このため家庭科教育を「教科教育学」の学内体系に位置づけていくための方法論を構築していかねばならない。家庭科は家政学の理念に基づいた教育内容の存在性に関わる論理と教育科学的論理との二側面が結合された共通理念としての基礎認識論を基盤として、家庭科の目標論と教育内容構成論の構築が肝要である。

教科教育学における教育目標、教育内容構成、教材構成、教育評価、学力論等の構造化された学内体系に「家庭科教育」を位置づけるための方法論の確立のため、「ライフスタイル・アプローチ」によるシステム的分析を試み、更に、分析と統合との有機的相互関係により、要素、個別、部分の総合的次元における機能を明確にし、家庭科の目標論、教育内容構成論等の分析的展開を試みた。「ライフスタイル」は、「生活意識」「生活構造」「生活行動」の三つの次元から構成されるパターン化したシステムであり、この基本概念より生活を経営体としてとらえる場合、「生活者」は「ライフスタイル」の主体であり、「生活意識と生活行動のパターン」「生活課題の解決および充足のしかた」がライフスタイルでありこの基本概念を論拠とした「教育目標」「教育内容」の教育方法の構造論が教科教育実践の方法原理を説明する。「ライフスタイル・アプローチ」は、教育方法の構造論のシステム的分析、即ち教育目標、教育内容構成のシステム化を容易にし、家庭科教育が教科教育学の学内体系に位置づけられるための方法原理確立への可能性を見出した。